

# 分科会議事録

書記：筑波キングス・ガーデン  
介護支援専門員 園城寺哲男


第4分科会 ～ケアハウスとグループホーム入居者の重度化の対応～	
役割	<p>[司 会] 筑波キングス・ガーデン 相談員 二宮眞由美氏</p> <p>[発表者] 草加キングス・ガーデン 相談員 青井 健一氏</p> <p>[発表者] 筑波キングス・ガーデン 介護員 野田 恵氏</p> <p>[ファシリテーター] ケアハウス主の園 施設長 山崎 公三氏</p>
検討課題	<p>1. 脱水予防や閉じこもり予防の取組み</p> <p>2. 軽費における認知症の方への対応</p>
課題に対する意見	<p><b>【暑さ対策・水分補給】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコンの操作が出来ない。夏、暑くてエアコンを使うと、暖房になってしまう。</li> <li>・夏の暑さで、脱水が心配され、水分補給が重要となった。水分摂取を好まない入居者が多く、様々な工夫が必要であった。</li> <li>・トイレが近くなってしまうのが嫌！と、水分を控える方が居て困った。</li> <li>・水分を含んだ御菓子等を提供したり、「〇〇ヘルパー手作り」と、価値をつけて提供したりした。</li> </ul> <p><b>【無断外出】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜中に外に出てしまうケースについては、外から鍵をかけるなど対応した。（火災等に対応して、夜間には鍵を解除した）</li> </ul> <p><b>【医療・受診】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬は自己管理が原則。施設Nrs管理の場合は、費用（1500円／月や300円／週）徴収する。</li> <li>・病院受診は、介護タクシー、施設送迎等様々。命に関わるものを優先。</li> </ul> <p><b>【困難ケース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ話ばかりで、食事のテーブルの同席者が嫌になってしまう。入所者同士のトラブルもある。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に、水分補給が充分に出来ず、脱水となり、入院となったところ、環境の変化からか、認知症になってしまった方がいた。受診してDrに「脱水」と言われるのはとても辛い。プロとして「脱水」にはしてはいけないと思う。</li> <li>・ケアハウスは、個室でもあり中で何をしているかまでは管理出来ない。家族がするような援助になる。声掛けをしたり、水分補給を呼びかけるポスターを貼ったりしているが、脱水になったらしょうがない。</li> <li>・医師である理事長から、ソバ茶は利尿作用が無いので、トイレに行きたくないから良いといわれて、一時ソバ茶を水分補給で出していたが、費用がかかりすぎて止めてしまった。</li> </ul>
発表者の感想	<p><b>1. 青井相談員：</b>（無断）外出対策については、いろいろな意見を伺った。冬の深夜に外に出てしまった認知症の人があったが、凍死の可能性もあった。保証人との相談も行い、必要な対策を取って行きたい。自分は、未だ移動後半年なので十分な発表ではなかったが、入居者一人ひとりの事をよく知って、良く考えて、一人ひとりの想いを推し量って行きたい。入居者一人ひとりが、ケアハウスで生活してよかった と思っていただけるのが目標であり、行事をやったから良いというわけではない。</p> <p><b>2. 野田恵ヘルパー：</b> 筑波は軽費老人ホームなので、ケアハウスの事を聞いて、違いがわかり勉強になった。 草加の様々な行事は素晴らしいと思った。筑波では重度化があり、全く同じには出来ないが、ちょっとした楽しみを味わえる企画を考えて行きたい。0様の対応は絶対的な答え（正解）は無いが、0様も職員も楽しめるようにしたいし、そうすることによって他の方にも楽しみを提供できると思う。</p>
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから施設を立ち上げる立場としては、大変参考になるお話でした。</li> <li>・加齢により、入所時は自立していても、必ず老化していく。ADLは必ず低下するし、認知症が発生すれば、時間とともに進行していく。外部機関の活用も含め、重度化の対応は必然で、どのような方法をとれるのか考えておく必要がある。</li> <li>・困難ケースが様々だが、人格円満で対人関係に問題が無い人ばかりではない。ある人が、施設で問題を起こし、そこを出ても、必ず次の施設で問題になる。対人援助の職業として、キリスト教主義の施設として、技術はもちろん、人を愛する姿勢を問われると思う。</li> </ul>




# 分科会議事録

書記：草加キングス・ガーデン  
施設介護部長 友藤 礼子

## 第5分科会 ～ターミナルケアの連携～

役割	[司 会] 筑波キングス・ガーデン 介護副主任 野武 美穂氏 [発 表 者] 川越キングス・ガーデン 介護員 高橋宏太郎氏 [発 表 者] 筑波キングス・ガーデン 介護主任 野田 望氏 看護主任 池澤 泰子氏 [ファシリテーター] 川越キングス・ガーデン 施設長 児島 康夫氏	
検討課題	1. その人らしいターミナルを過ごす為の連携の大切さ 2. 気持ちを込めたターミナルケア	
課題に対する意見	*ターミナルケアはこれで良いのかこれで良かったのかといつも不安を感じるが、他職種の協力連携により解決出来るのではないかな。 *一人じゃ何も出来ないが、協力する事で達成できる。 *看取りを振り返る事で次の看取りにつなげられる。 *ターミナル期、エンゼルケアに本人の事を考えて布パンツを使ったという話は衝撃的、その方らしく考えたケアの実践は感動した。 *24時間なんでもノート（日記形式）を作成し、訪室した者みんなが記入した事でより心の通じ合う介護になり、ご家族とも心がつながっていった。 *一人ぼっちにならないケアを連携により心がけた。 *経口摂取できなくなった時、余計な苦痛を与えないと考えてゆく事も必要。 *何をしたいのか戸惑う事があったが、その利用者の気持ちを大切にしたい。 *理念を看取りの取りくみに実践したい。 *看護職員として家族へ状況の伝達の難しさを感じるが、家族への思いが伝わった時がうれしい。 *家族の目線も大切に看取り介護をしている。	
まとめ	*医療職が出来る事をしていないのでいか・・・と不安を感じているが、治療する負担を考えるとしない事を選択する場面もある。各専門職が連携協働する事で、きめ細かいケアが提供でき、その人らしい最期を迎える事が出来る。 *連携・協働により、看取りの不安から喜びに変わる介護ができる。	
発表者の感想	*はじめは不安があったが、そのかたが何を望んでいるかをみんなで共有し連携協働し、最期は介護できる喜びに変わった。最期の行為を自分ができたという喜びを感じた。  *専門職（看護師）として、前に好きなケーキを召しあがって頂こうと提供したが利用者が下痢をしてしまった。今回は好きな甘いクリームなら摂取できるだろうと購入してきたがヘルパー職員より止めてほしいと叱られた。余計な苦しみを与えない事も大切という事を知らされた。その方らしい最期を送って頂きたいと各専門職がカンファレンスを積み重ね、その人らしく最期を迎える為連携協働を重ねた。専門職として今までしてきた事でも今本人に何が必要かによりしない事を選択も必要、みんな（家族含）でその方らしい最期を共有でき、最期を迎えて頂く事が出来た。	
参加者の感想	*各職種間の連携協働でその方らしい最期を迎える事が出来る。  *家族も不安を抱えているが、職員の接し方で少しずつ看取りを受け入れていくのではないかな。  *24時間何でもノート（日記形式）は早速実行してゆきたい。	

	
--	--